

**令和4年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和4年12月
海老名市立上星小学校**

令和4年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

- (1)教科に関する調査(国語, 算数・数学及び理科)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

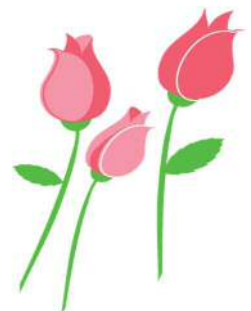
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

調査実施日

令和4年4月19日(火)

※児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、端末を活用したオンラインによる回答方式で実施



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することができるかどうかをみる。
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができるかどうかをみる。
- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。
- ・表現の効果を考えることができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 登場人物の行動や気持ち、物語の全体像などについて、叙述をもとに捉えることができている。
- 互いの意見を尊重し、意見をつなげながら話し合うことの良さやその方法を理解しています。
- 漢字や仮名の字の大きさや配列に注意しながら書くことができている。

◆課題のある点

- 習った漢字を文章の中で正しく使うことに課題が見られます。
- 自分の考えについて、根拠を示しながら記述することに課題が見られます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 国語に限らず、他教科の授業においても根拠を明確にして自分の考えを記述する機会を設けます。
- 漢字を日常的に使うことを意識して指導します。作文指導で学習した漢字を使うように声をかけたり、学習した漢字を使って文章をつくる活動を取り入れたりしながら、「漢字の運用力」を高める指導を行います。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・二つの数の最小公倍数を求めることができるかどうかをみる。
- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できるかどうかをみる。
- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる。
- ・百分率で表された割合を分数で表し、基準量から、比較量を求めることができるかどうかをみる。
- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。
- ・二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。
- ・全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかどうかをみる。
- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるかどうかをみる。
- ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・加法と乗法の混合した数の求め方を解釈し、他の場合の求め方と答えを記述できるかどうかをみる。
- ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できるかどうかをみる。
- ・長方形・ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる。
- ・作図手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 図形を構成する要素をしっかりと理解しています。
- プログラミング的思考を働かせて、図形を描くことができます。
- 目的に合ったグラフを選び、必要な情報を読み取ることができます。

◆課題のある点

- 日常の具体的な場面に結び付けながら、「割合」や「比例」について考え、問題を解決することに課題が見られます。
- 示された問題の場面を解釈し、目的に合った数処理の仕方を考えることに課題が見られます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 問題場面を具体的にイメージできるよう具体物や図などを用いて考える授業を行います。
- 立式の根拠を考えるなど、式や演算から問題場面をイメージできるように指導をします。

小学校 理科

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・昆虫の体のつくりを理解しているかどうかをみる。
- ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・メスシリンダーという器具を理解し、正しい扱い方を身に付けているかどうかをみる。
- ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・日光は直進することを理解しているかどうかをみる。
- ・実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる。
- ・実験や観察で得た結果を解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。
- ・結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。
- ・水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

○「昆虫の体のつくり」や「メスシリンダーの使い方」などの正しい知識を身につけています。

○予想・実験結果をもとに、「問題に対するまとめ」を検討することができます。

○追加された情報をもとに、実験方法を検討・改善することができます。

◆課題のある点

○他者が科学的な現象を見て気づいたことを解釈し、新たな問題として考えることに課題が見られません。

○「実験の結果、どうしてそのようなまとめになったのか」というように、根拠を考え、整理し、記述することに課題が見られます。

今後の具体的な指導改善のポイント

○学習課題に対し子ども自身が見出した「予想」「実験方法」「結果からの考察」を授業の中で十分に交流させ、主体的に実験・観察ができるように授業を進めます。

○自分自身の考えを記述する機会を多く設けます。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 「分からない課題があったときには、先生や友だち、家族などに聞く」と回答した児童の割合が全国平均を上回っています。分からないことをそのままにせず、解決に努めようとする児童が多いことが分かります。
- 国語・算数・理科において「勉強が好き」「勉強は大切」「勉強したことは、将来に役立つ」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っています。興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいることが分かります。

◆本校の課題と思われるところ

- 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と回答した児童が全国平均を下回っています。

生活について

◆本校のよかったところ

- 約80%の児童が「夢や目標を持っている」と回答しており、約90%の児童が「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答しています。多くの児童が将来に希望をもって、努力していることは、本校のよさです。
- 「困りごとや不安があるときに、大人に相談できている」と回答している児童の割合が、全国平均を上回っています。

◆本校の課題と思われるところ

- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた児童の割合が全国平均と比べて下回っています。

今後の具体的な取組について

- 授業の終末において、学習の振り返りを行うことで、学んだことを次に生かすことができるようにします。
- 学級や学校全体において「失敗してもよい雰囲気づくり」に努めます。
- 小さな成功体験を積み重ねるようにし、挑戦することの喜びを感じられるように支援します。

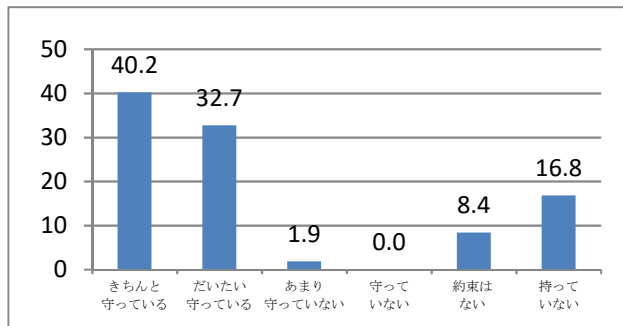
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1

ICT 機器やインターネットを使う際の約束を決め、それを必ず守りましょう。

「ルールとモラルを守って使用すること」が、ICTの活用にあたって、とても重要なことです。ご家庭でも情報モラルについて話し合ってみましょう。

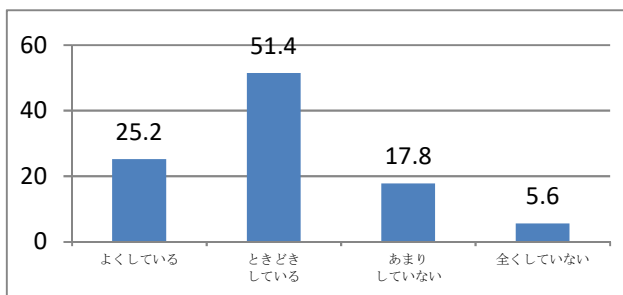


携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

2

学習の計画を立てて、勉強しましょう。

自分に必要な内容を考え、毎日継続して家庭学習に取り組みましょう。

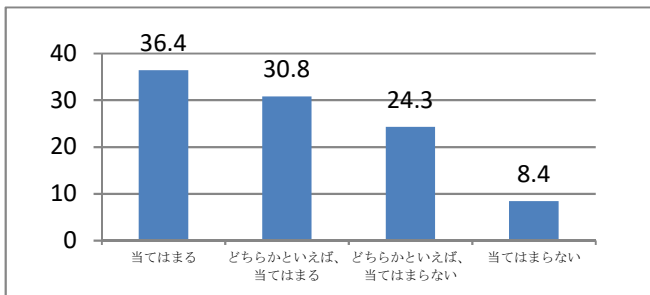


家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

3

家族で意見の交流をしてみましょう。

他者の考えや気持ちを知り、他者の意見について考えることは、自分の考えをよりよいものにするために大切なことです。食事やテレビを見ている時間など、何気ない時の会話が、自然と意見の交流になるのではないのでしょうか。

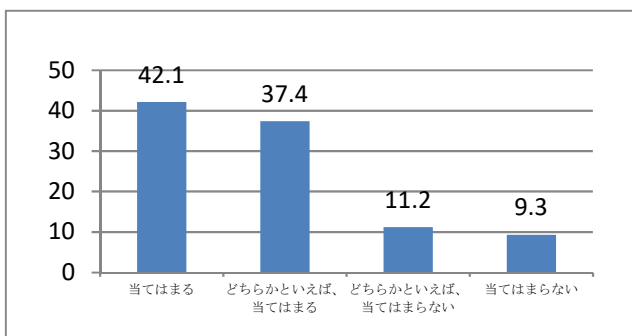


自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

4

子どものよさ、がんばったことを認め、褒めましょう。

褒められることで、子どもたちは、何事にも前向きに取り組むための自信がつきます。子どもの次への挑戦を後押ししましょう。



自分には、よいところがあると思いますか

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様に市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係